

私がこの一年頑張ったと言えることは三つある。

一つ目は、大学受験の準備である。私は将来幼稚園教諭・保育士を目指しており、高校入学時にはこの資格が取れる四年制大学へ進学したいと考えていた。その為、早くから指定校推薦入学制度の受験を見据え、志望大学の指定している必修科目を調べて漏れなく選択し、計画的に学習を進めてきた。その甲斐あって第一志望の校内推薦者資格を得ることができた。秋には面接対策が始まり、特に志望動機を簡潔に纏めることに苦慮したが、担任の先生から何度も助言や指導をいただいて準備したことにより、当日は自信をもって面接試験に臨むことができた。早期に大学受験を意識し頑張ってきたことが合格という結果に繋がったのだと実感している。

二つ目は、高校三年間務めたクラス委員である。クラス委員は毎年のクラス替えになると、進んでやる人がおらず、なかなか決まらないことが多い。私は元々多くの人をまとめて物事に取り組んだり、イベントを企画し進行するようなことが好きであり、得意でもあると自負している。その為、コロナ禍ではあるが、自身も含めてクラスの皆が少しでも楽しく学校生活を送れるように役に立てればよい、という思いで三年次でもクラス委員を引き受けた。学校行事において思い描いていたような活動ができなかったのは残念だったが、副級長としての始業・終業の号令のほか、級長と共に行事についての取りまとめを務めることができた。三年間クラス委員をやったことで皆から頼りにされることも多く、交友関係も広がり、有意義な経験ができたと実感している。

三つめは、高校生活最後の文化祭である。コロナ禍で例年通りには開催されず、多くの制約がある中、私は友人たちとダンスの舞台発表に取り組んだ。一グループに与えられた時間は例年よりも短くなり、計画していた演技を全て盛り込むことができなくなった。そんな中でも、何度もメンバーと話し合い、練習を重ね、当日の舞台発表では精一杯やり切ったと言える最高の思い出にすることができた。限られた条件下で、仲間との工夫や協力、一人一人の努力によって、充実した体験を得ることができたのだということを感じることができた。

いよいよ大学生になるが、高校三年間で得た数々の貴重な経験を活かし、大学生活も充実させたいと思う。